

争議団ハ持込職ニ入ルノ覚悟ヲ以テ行商係組織ニ
決シ一方和同紡績所訪問、工場糾弾演説會開催等ニ
依リ結果ヲ保シント努力セリ
工場側ニ於テハ交渉断絶ニシル以上ハ態度ヲ開明
シ一旦全職工ヲ解雇ニシル後改メテ穩健分子ヲ採
用シテ事業ヲ繼續スヘク決意ニ二十日ヲ以テ解雇
通知郵送ノ手筈ナリシカ偶シ妥協交渉ノ兆ナリ一
時争表ヲ見合セタリ

争議団幹部橋村幸昭ハ持込職ノ不利ナルヲ覺リ妥
協ノ迷途ニ墮ルセリモ労働組合ノ牽制アリ意ノ如
クナラス密カニ金玉市太郎(元中山亞鉛鑛工親
神戶亞鉛工場廠長)ニ調停
ヲ依頼シ工場長代理南寅太郎ト折衝ノ結果

人決議極端トシテ委員制度ヲ認メ之カ委員ハ
ニ四定期限置スルニト但シ人員ハ工場主ノ指
名委員四、職ニ別委員四、計八名トスルニト

又休業中ノ給料ハ半額支給トシ其ノ他ノ半額ハ